

デキシーランド・ジャズ一筋に活躍されたトロンボーン奏者、藺田憲一（本名＝市川船昇）さんが7月12日未明に食道癌で逝去されました。享年76歳。

初めて『藺田憲一とデキシーキングス』の演奏を生で聴いた時、そのリズム感の爽快さと迫りに圧倒されたことを思い出します。

個人的には学生時代はモダンジャズ全盛で、トラディショナルなデキシーランド・ジャズを少し軽く考えていたのですが、本来のジャズは米国南部の黒人音楽とヨーロッパ移民の持ち込んだ音楽とが融合され発展した、自由なスピリッツが込められたポピュラーな音楽であることを知る事ができました。

藺田さんとは仕事上での付き合いでしたが、多くの人に愛されるお人柄と野球やゴルフが大好きなスポーツマンで常にダンディで粋な印象を残してくれました。

著書『わが心のデキシーランド・ジャズ』（三一書房）には、藺田さんの生き方そのものが戦後のジャズ史、芸能史として貴重な資料として書かれています。

是非とも再販、文庫本化されて多くの人に読んで頂きたいものです。

栄枯盛衰の世界にあってジャズバンド（デキシーキングスを結成46年）を永く続け、デキシーランド・ジャズの可能性を一徹して貫いた姿は That 's a plenty(これで満足)！

藺田さんが残した音楽(スピリッツ)は新生！『デキシーキングス』に引き継がれ

これからも私たちを楽しませてくれる事でしょう。

天上で往年の盟友、世良 譲、ジョージ川口、ディック・ミネさんらと心ゆくまでセッションを楽しんでください。合掌！

